

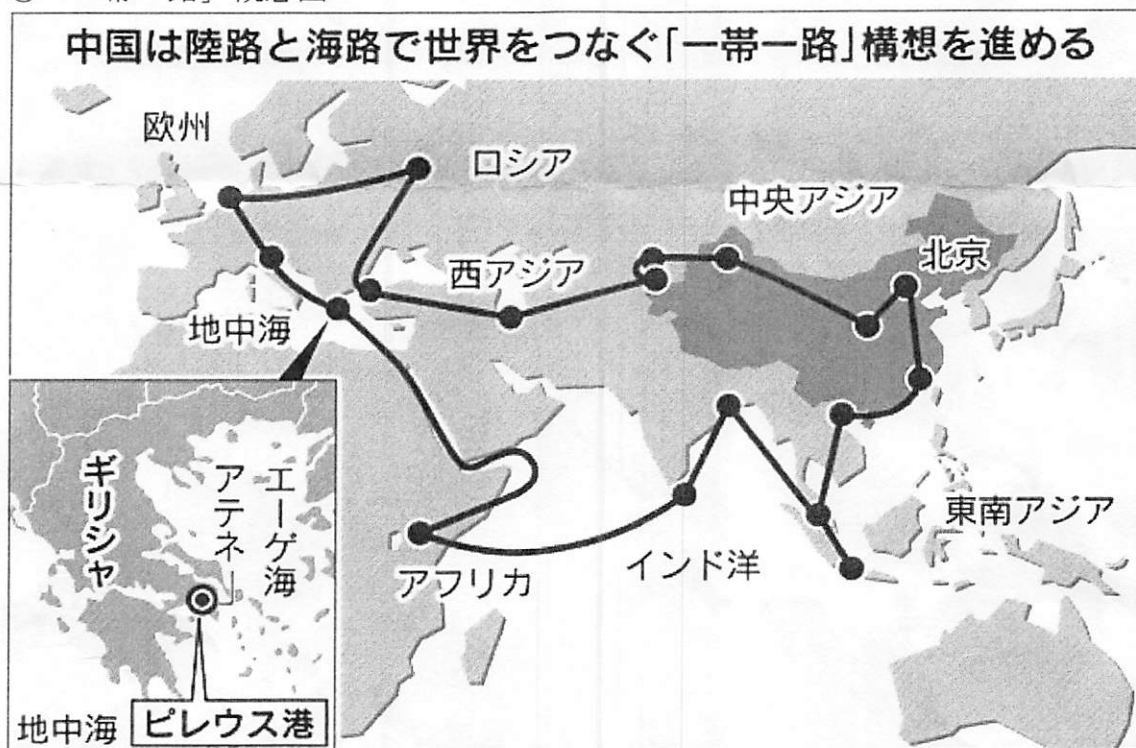
◎「一带一路」構想とは

習近平中国主席が就任早々の 2013 年に打ち出した構想で、陸路と海路で中国・アジアと欧州をつなぎ、そこに新たな経済圏をつくり出そうという壮大なプラン。その巨大経済圏づくりの「2本の軸」として想定されるのが古代の交易路「陸のシルクロード」と「海のシルクロード」。ユーラシア大陸の東西を結んだ、かつての交易の道を現代に蘇らせようとの発想だ。

この「一带一路」実現のため、中国が主導して設立したアジアインフラ投資銀行（A I I B）やシルクロード基金などが財政支援を行う。

「一带一路」構想が打ち出された背景には、成長が鈍化してきた中国経済の次の発展の起爆剤にとの経済的な動機のほか、中国が主導する国際秩序の形成という政治的な狙いもあると見られ、米中対立のポイントにもなっている。

◎「一带一路」概念図



（注）「一带一路」の当初計画では 2 本のシルクロードの沿線国は 60 数カ国、人口は世界の 6 割以上、GDP 合計は世界の 3 割などと概算されていた。

10 年余を経た現在、構想はアフリカ・南米大陸、南太平洋の島国にも拡大し、まさにグローバル規模に発展している。成功したプロジェクトもあれば、矛盾・欠陥が指摘される事例もあり、関係各国の対応も一様ではない。

（止）